

製品名: PSMA マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82021**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	84.3kDa

抗原情報

遺伝子名	PSMA
別名	FOLH1; PSM; FGCP; FOLH; GCP2; mGCP; GCPII; NAALAD1; NAALAdase
遺伝子 ID	2346.0
SwissProt ID	Q04609
免疫原	大腸菌で発現したヒト PSMA (AA: 余分な 44-177) の精製された組み換え断片。

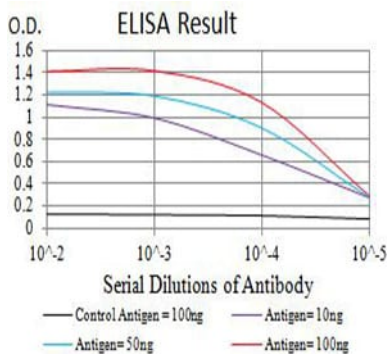
背景

この遺伝子は、M28 ペプチダーゼファミリーに属する II 型膜貫通糖タンパク質をコードしています。このタンパク質は、栄養素である葉酸や神経ペプチドである N-アセチル-L-アスパルチル-L-グルタミン酸など、様々な基質に対してグルタミン酸カルボキシペプチ

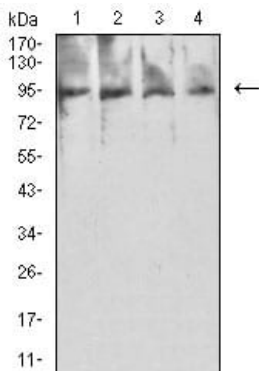
ダーゼとして作用し、前立腺、中枢神経系、末梢神経系、腎臓など多くの組織で発現しています。この遺伝子の変異は、食事性葉酸の腸管吸収障害と関連している可能性があり、その結果、血中葉酸濃度が低下し、高ホモシステイン血症を発症します。脳におけるこのタンパク質の発現は、グルタミン酸興奮毒性に関連する多くの病態に関与している可能性があります。前立腺では、このタンパク質は癌細胞で発現が亢進しており、前立腺癌の有効な診断および予後指標として用いられています。この遺伝子は、近傍の染色体領域の重複によって生じたものと考えられます。選択的スプライシングにより、いくつかの異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。

研究分野

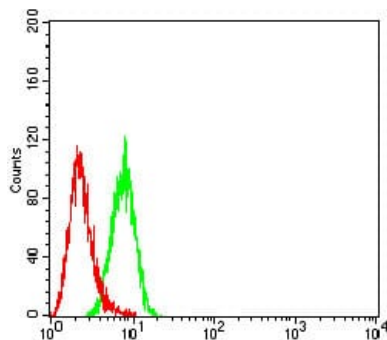
画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



Hela (1)、MCF-7 (2)、HCT116 (3)、および GC-7901 (4) 細胞溶解物に対する PSMA マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



PSMA マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。